



日本語文法の中で副詞について研究しています。中でも「とても」「非常に」など程度表現を対象とし、日本語の変化の仕方やことばの成立について研究しています。

略歴

名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。国立国語研究所非常勤研究員、愛知県立大学・愛知淑徳大学・中部大学等非常勤講師を経て、2016年に日本工業大学共通教育学群教育専任講師に着任し、現在に至る。レポート作成やプレゼンテーション技法の科目を担当している。

所属学会など

日本語学会
日本語文法学会
近代語学会
日本近代語研究会
名古屋国語国文学会
名古屋言語学会

研究紹介

程度副詞に関する記述的研究

私の研究テーマは副詞です。副詞は動詞や形容詞のように活用があるわけではなく、文法カテゴリーのどこにも当てはまらないものが雑多に混じった品詞です。そのため、明らかにされていないことが多くあります。最初から副詞として成立していることばはあまりなく、形容詞や形容動詞などが固定化されて元の意味を離れ、次第に副詞化していく経路をたどることが多いです。例えば、「決する」（動詞）→「けっして」（副詞）、「ひどい」（形容詞）→「ひどく」（副詞）などです。

これらの副詞を通じて、新たな日本語の成立の過程を明らかにする研究を行っています。特に程度の高いことを表すことばは流行語として広まることが多く、例えば「超（面白い）」「めっちゃ（うまい）」など若者から発信され広まっていく傾向にあります。新聞やコーパスを用いて用例採集し、変化の過程から新たなことばとして定着するまでを分析しています。

近年は、「まったく～ない」に相当する全否定の副詞の位置づけを考えています。例えば「1ミリも～ない」は流行語として静かに浸透し、程度の高い「超」などの流行り方と特徴が類似しています。否定の副詞としてこれまで捉えられていた語群の見直しを行い、程度の表現として捉えなおした副詞の体系について模索、研究しています。

主な論文発表

「程度副詞「すごい」の使用実態」（Nagoya linguistics』8、p85-98、2014
「書籍タイトルにみる「9割」の用法」（『artes liberales』31、p29-40、2020
「否定程度副詞の成立ー「1ミリも～ない」を事例としてー」（『論究日本近代語』第2集、p297-312、2022
「頻度を表す副詞の程度性ー「十年に一度の」を例にー」（『論究日本近代語』第3集、p375-388、2024

学会活動

日本語学会中高生日本語研究コンテスト委員（2022年～）
2022年より日本語学会で中高生の日本語研究コンテストを始めました。立ち上げから委員として審査にあたることのほかに、HPにおいて、レクチャー動画を担当しています。発表の方法、資料の作り方前編後編の動画を作成しています。
〈中高生日本語研究コンテスト学びの部屋〉
<https://www.junior-jpling.org/%E5%AD%A6%E3%81%B3%E3%81%AE%E9%83%A8%E5%B1%8B/>